

家庭コンサートに参加して

酒井 董美ただよし

コンサート後の桜見散策でのスナップ(近藤佳男氏撮影)

員、現役の介護施設勤務など様々だった。遠藤さんのお宅は菜園つきで、そこで採れた水ぶきの梅煮がお茶会で出されていた。

肝心の家庭コンサートについて述べると、部屋にあるピアノで彼女の演奏、シューマンのトロイメライから始まり、参加者の一人、福岡孝さんのギター伴奏による彼女の独唱と続いたが、八十八歳になるご母堂(吉岡則子さん)が、彼女の独唱に合わせて即席で踊りを披露されるなど、聴衆の微笑を誘う一幕もあった。一通り終わった後、ギター伴奏で参加者一同による合唱もあったが、筆者は「知らぬ曲ばかりなので歌えない」と言うのと、「昔の歌謡曲ならどうですか」と水を向けられ、結果的には第二次世界大戦後、つまり筆者にとって中学生時代に流行った岡晴夫の持ち歌「憧れのハワイ航路」を福岡さんのギター伴奏で独唱させられる羽目になったのはご愛敬であった。お茶会では参加者である狩野俊道さんお手製のグリーンカレー(タイカレー)、遠藤さんお手製の蒸しパンケーキなどを話し合いながら賞味するといった、至って和気藹々としたものだった。

その後、近くの床凡山付近の水道配水池公園の桜が見事なので散歩したり。山頂から市街を見下ろして楽しんでいたりして、三々五々散会という肩の凝らない会合だった。

聞けばこのような家庭コンサートは「歌手 Ritsuko」さん主催として毎月開いているそうだ。多忙な毎日にあつて、時としてこのようなひとときを過ごすことも、とても貴重なことではなからうか、そんな思いが頭の片隅をふっと横切った筆者なのである。

(元島根大学法文学部教授)